

Fリーグクラブの運営に関する研究

The study of administration about F league club

1K06A210

指導教員 主査 岡田 純一先生

原口 邦敏

副査 間野 義之先生

【研究背景】

近年、わが国においてフットサルは全国的な広がりをみせている。「いつでも、どこでも、だれとでも」という特徴を持つフットサルは、これまで「するスポーツ」として広く普及してきた。2007年にフットサルの全国リーグであるFリーグが開幕したことにより、「見るスポーツ」としてのフットサルが普及しはじめた。しかし、その知名度は低く、興行を行っている各クラブの運営や戦力にも大きな差があり、「見るスポーツ」として発展していくうえではまだまだ課題が多いことがわかる。

【研究目的および方法】

本研究では、文献調査を通して、Fリーグクラブの運営、特に経営面における課題を抽出し、その解決策を提示することを目的とする。

まず、中村(2008)の研究をもとに、Fリーグクラブの運営の中でも経営面において財務分析を行った。その中から支出項目で最も割合の多い、人件費について広瀬(2009)を参考に支出項目に占める人件費の割合と競技力の関係性について調査を行った。また、収入の項目で最も高い割合を占めた広告料収入について、原田(2008)、武藤(2006)、藤本(2006)らの研究をもとに、スポンサー・メリット、効果測定についての分析を行った。さらに、中村の欧州のフットサルリーグおよびクラブの分析をもとに、Fリーグクラブへの適用が考えられる優良事例および課題を抽出し、その分析を行った。

【結果と考察】

Fリーグクラブの財務分析の結果から、支出項目に占める人件費の割合と競技力は比例することがわかった。Fリーグが拮抗した質の高い試合を提供し、見るスポーツとしての価値を高めていくためには、プロ化による高いレベルの選手の確保が必要になってくるのではないかと考えられた。また、収入の項目で大きな割合を占めた広告料収入においては、さらなるスポンサー獲得のために、メディアコンテンツとしての価値を高め、Fリーグにおけるスポンサー・メリットの向上を図ることが必要であると推察された。さらに、海外リーグの分析を通して、スペインにおけるクラブ運営では自治体との関わりが深く運営において大きな恩恵を受けている。イタリアでは外国人選手の多様による国内選手の育成が問題になっている。以上のことより、Fリーグクラブの運営における課題として、「健全な運営の為の経営能力の必要性」、「フットサルあるいはクラブの普及の為の自治体との関わり」、「競技力の向上と維持」があげられた。しかし、本研究はこれまでの事例をもとに分析・提言がなされており、その方法論は実際の現場とは乖離する部分があると考えられる。これからの課題としては、本研究を通して浮き彫りになった課題の解決策について、調査・分析を行い、課題の解決を図っていく必要がある。

【結論】

健全な運営を行っていくためには、財務分析において収入の項目で高い割合を占めた広告料収

入と入場料収入を増やすことが重要であると考えられる。その方策として以下のことを提言した。共通して必要な事としてフットサル観戦者の特徴を把握することがあげられる。広告料収入への方策としては「メリットの提示」と、「マーケティング活動」が必要である。また、入場料収入の方策としては、観戦者特性を踏まえたうえでの様々な種類のチケットの販売が行っていくことが有効である。さらに、普及に関しては、Ｆリーグ参入における必須条件であり、フットサルおよびクラブの普及の為に地域でのフットサル教室やイベントへの参加を行っていかなければならないと言える。